

女性医師の窓

医学生がんばってます！

～みんなで支える「あなたの夢を自分の夢を忘れないで」～

石川県健康福祉部少子化対策監室子育て支援課
沼田 直子

11月1日、金沢大学医学展で開催された「女子医学生と語る会」に参加させていただく機会を得ました。よく聞く言葉に胸が痛むことがあります。「今時の学生は…」で始まる言葉は今に始まったことではないでしょう。私がまだ若かりし頃？もさんざん浴びてきた言葉です。時代を築いてきたのはその前を歩んできた人々であり、「今時のひと」は良かれ悪かれその財産と利息の中で生き方を探らざるを得ないことを胸に刻みたいと思っています。現実を見つめることは重要ですが、一回きりの出会いの中で不安しか残らないような「だからあなたもがんばって」式懐古的なアプローチは何も産まない、希望を夢を共に語り合いたいと思って出向きました。

まずは、学生さんたちの姿勢の真摯なことに勇気ももらいました。自分たちがこれから医師として社会的に果たすべき責任をちゃんと胸に刻んでいる 私が医学生の時のことを思うと恥ずかしなくらいです。女子学生が増える中、微妙な言い回し、批判的な視線にもちゃんと逃げずに向き合う姿勢にも好感をもちました。男子学生の参加もあり、これから女性医師と結婚した場合パートナーとしてどう共に歩めばいいのかという「人」としての柔らかな姿勢にもこちらが希望をもらえました。率直でやわらかい感性でしかも真摯、すでに遠く置き去ってきたかもしれないものをもっている、それが学生さん達なのだ、この可能性を伸ばすのも委まってしまうのも先に行くものの責任だと、そして未知数だからこそ、医者としての在り方、働き方、男女が共に歩むパートナーシップを変えていける力にもなると感じさせられた気がしました。

学生さんたちは、今の医師の働き方に漠然とした大きな不安を抱えている様子がよく見えました。それは医療者としてどうあるべきかというレベルとは異なる問題を直感的に感じていることです。医師という職業を全うしながら人としてもどう幸せに生きていくことができるのか…多分、現在激務の中で多くの先生方が自問自答している「人」としての暮らし方、医療システムへの問題の投げかけです。自分にも個人として何ができるのか、返す言葉は見つけれません。カナダに留学した際、家庭医学の指導医が語った言葉を伝えました。「良い医療をできる医師は人として幸せに生きていること、それが重要なのだ」と。何人かの女子学生が良き妻、母でもありたいということを言葉にしました。子育て支援をしている仕事上からも、日本の女性たちがいかに「～べき」に縛られる自分像を作り上げ、仕事と子育ての間で苦しんでいるか、「自分はね、自分であればいいのよ。その中で自分ができる精一杯のことをその時点その時点で積み上げていけばいいだけよ」私は自分の考え方、生き方を語りました。ライセンスを持つ強さ、医師としての働き方の多様さ、だからこそ女性も「人」としてしなやかに生き、経済的に独立し、男性と新しい関係性を築くロールモデルになりうるのだと。そして男性医師ももっと自由になれるのよと。

学生さんたちが今目の前にある現実におびえないで今の世代がなし得なかったことを創り上げていくことは、私たちの夢を叶え医療をよくしていくことでもある…学生さんたちの「あなたの夢」は私たち「自分の夢」でもあるのだと思うのです。変えていくのに必要なのは希望であり夢を持ち続けること、そしてあきらめないこと。先に行くものとして、時には目を丸くさせられるようなことも楽しめるそんな応援者でありたいと思います。

欲を言えば、あまりにも現実を見つめすぎて一歩踏み出す前に躊躇してしまっている「超現実主義」からもっとはみ出してくれると嬉しいのにな、なんて。むやみやたらにとりあえず足だけ出してみる私は一体どんな「ヒト」に映ったのでしょうかね。